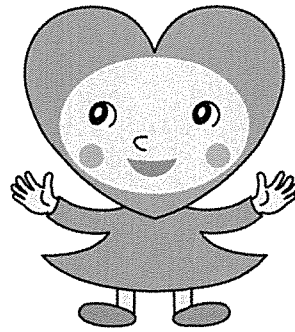


令和6年度
第4次能美市地域福祉活動計画[3年目]

評価委員会報告



地域福祉推進のマスコット
のみんちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

令和6年度 第4次能美市地域福祉活動計画評価委員会

◇ 委員名簿

西川 方敏	評価委員会 委員長		
吉田 良	評価委員会 副委員長		
高田 茂	〃 委員		
生田 絹代	〃 委員		
中山 勇	〃 委員		
津田 康則	〃 委員 (こころに寄り添い合う人づくり委員会	委員長)	
小西 彰子	〃 委員 (	〃	副委員長)
外山 ひとみ	〃 委員 (	〃	副委員長)
藤田 珠美	〃 委員 (見守り・助け合い推進委員会	委員長)	
山先 満広	〃 委員 (	〃	副委員長)
吉田 則明	〃 委員 (	〃	副委員長)
近藤 沙夜里	〃 委員 (くらし応援委員会	委員長)	
谷田 好子	〃 委員 (	〃	副委員長)
立花 秀人	〃 委員 (	〃	副委員長)

◇ 目次

1. 第4次能美市地域福祉活動計画3年目の取り組みについての報告	・・・	1
① 評価の視点	・・・	1
② 各委員会の報告	・・・	2
③ 総合評価(意見交換)	・・・	5
④ まとめ	評価委員会委員長 西川 方敏	・・・ 5
⑤ 報告と公表		・・・ 7
2. 3委員会の評価シート・経過シート	・・・	8
3. 第4次能美市地域福祉活動計画の指標	・・・	14
4. 第4次能美市地域福祉活動計画の3年目の推進体制	・・・	17
5. 中間年度評価と発展～いくつかの評価軸と意識していただきたい視点～	・・・	18

評価委員会アドバイザー 井岡 仁志 氏

1. 第4次能美市地域福祉活動計画3年目の取り組みについての報告

第4次地域福祉活動計画は、令和4年から令和8年までの5年間が対象期間となります。地域福祉活動計画の推進母体が「こころ豊かな地域づくりの会」です。この組織には、「こころに寄り添い合う人づくり委員会」、「見守り・助け合い推進委員会」、「くらし応援委員会」の3つの委員会があります。各委員会は、活動計画当初の目標を見据えて、その達成を目指すとともに、その活動によって見えた課題を踏まえて、今後の方向性を模索するという実践部隊です。地域社会が活動対象となりますので、活動の裏側に数々の試行錯誤があることをご理解ください。

また「こころ豊かな地域づくりの会」は、地域福祉を住民に広く知ってもらい、理解してもらうための「春 まち ぽかぽか プロジェクト」を毎年開催しています。令和6年度は令和7年2月22日（土）から3月2日（日）までの9日間で、18のプログラムを実施しました。延べ1379名の参加を得ました。

① 評価の視点

- ◇ 『障がい』という言葉の意味についてしっかりと検討しておくことが必要です』と、初年度の評価報告にあります。「障がいの定義」を求めているというよりは、「障がいとは何か」を深く考えることを求めたものだ」と解釈できます。結果として、「ひきこもり」にも視野が広がったことが評価されました。また、「活動の制限」や「社会参加への制約」による「生きにくさ」も、実は社会自体が持つ障がいとも言えるかもしれません。公助・共助の視点では、制度として機能させるために障がいの定義が必要になりますが、自助互助の視点からは障がいを知る・理解する・共感する精神がより大切となります。
- ◇ 地域福祉は地域における文化です。地域福祉活動はその文化土壌を耕していくことです。制度としての福祉を社会福祉とするなら、文化としての福祉が地域福祉だとも言えます。初年度の評価報告では、福祉文化の担い手となる「個人の成熟」が求められました。個人から、更に地域全体の成熟へと方向性も示されています。成熟とは文化の厚みであり、自発的な行動がその源泉であることも述べられています。自助互助という言葉は、それらを含意しています。
- ◇ 初年度の評価報告では、「地域福祉委員会」活動の充実を更に進めることが求められています。超高齢社会、自閉症や発達障害、生活困窮、近年多発している自然災害、諸制度の改革等、社会が抱える課題がありますが、住民が互いに見守り合い、助け合う地域福祉委員会を核に、地域の福祉課題を適切に捉え、諸機関と連携する等、課題を解決するための道筋を模索することが必要です。

- ◇ 「地域の特色を生かした住民主体の活動が盛り上がることを大切にしていかなければなりません」と、初年度の評価報告にあります。能美市には、ボランティア活動をしている多くの人たちがいます。ボランティアは地域福祉の精神を体現する人たちです。彼らの活動を支援する体制をこれからも継続、充実させ、ボランティア活動を楽しむ人たちをさらに増やす必要があります。
- ◇ 災害等の非常時でも、普段の暮らしを維持できるように、あるいは普段の暮らしを回復できるように、検討、準備しておくことが必要です。私たちは既にコロナ禍で、それまでの非日常が当たり前の毎日となる状況を経験しています。非日常下では、公助・共助が不十分にならざるを得ません。そういう状況でこそ、自助互助を有効に機能させるための、日頃からの準備や工夫が必須です。

② 各委員会の報告

◆ここに寄り添い合う人づくり委員会

自己評価（今後に向けて）

- ・ 多様性についての理解を進めるためにも人づくり講座（ICT 活用）を継続し、一緒に学び考える機会をつくる。
- ・ 福祉教育の更なる充実に向けて、幼少期から障がいの知識や理解を得るためにも児童館などに出向き、本の読み聞かせや放課後等デイサービスと児童との交流は継続していく。
- ・ 多様な人たちが一緒に参加し、共に活動できる場を広げるためにも「地域でふれあい行事を行うためのポイントガイド（第1次地域福祉活動計画 人づくり委員会作成）」を見直し、地域福祉委員会等への意識づくりと活動へのきっかけづくりのための啓発を行う。

相互評価

- ・ 子育て世代などに関われるような仕組みを作っていくことが大事である。若い人からお年寄り、障がいのある人、色んな人が気軽に話せる、発信できる場が必要である。

◆見守り・助け合い推進委員会

自己評価（今後に向けて）

- ・ 各種団体と連携し、地域における「つながり」の大切さの意識を高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくための自助互助によるしくみづくりを進める。
- ・ 今年度作成した「地域での見守りを進めるためのポイントリスト」の活用方法について検討し、活用した結果の分析を進める。
- ・ ICT を活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法について、各所属団体で取り組めるよう工夫につなげていくことを進める。

相互評価

- ・ 各町(内)会により、地域福祉委員会に対する理解や活動内容に温度差がある。原因として、地域福祉委員会の核となる町(内)会の会長が1、2年で交代することが考えられる。町(内)会長だけに頼るのではなく、地域福祉委員会のメンバーに色々な人を巻き込んで、町(内)会長が代わっても持続できる体制が大切である。
- ・ 人のつながりでは、色々な年代層がつながって縦でつながれるようにする。そうすれば、福祉に関心を持ってくれる人が増えるのではないか。後継者を育てることが大事である。

◆くらし応援委員会

自己評価（今後に向けて）

- ・ 居場所の見える化(居場所いい場所つながりマップ)にて居場所の存在を知り、情報発信としてのマップの配付を一部のところに行った。今後は見えてきた居場所を ICT の活用も含め、どのように周知していくことができるかを検討する。
- ・ 居場所を身近な地域などで形作っていくための、ヒントが得られる機会を勧める。
- ・ フードドライブやフードパントリーを継続して行い、助け合い活動の啓発を勧め、支える側・支えられる側に分かれるのではなく、それぞれが役割を持ち活躍できる場所を含めたつながるしくみづくりを進める。

相互評価

- ・ 助けられた側と助けた側のお互いの思いを市民に届けることで、「助けたり助けられたりの地域づくり」につなげていく。

③ 総合評価（意見交換）

- ・ 指標に「ふれあい行事の開催」がある。地域でのふれあい活動を増やすことで、様々なつながりができると思われる。
- ・ 能美市社会福祉協議会の会員会費を増やすことで「助けたり助けられたりの地域づくり」に向けた活動の理解者が増えることにつながる。
- ・ コミュニティを地域福祉として捉え、福祉を通したコミュニティづくりの研修講座があっても良いと思われる。
- ・ 見守り・助け合い推進委員会という名前について、もう少し幅を広げた、わかりやすい名前でも良いのではないか。内容は地域福祉委員会での見守りだけではなく、助け合い活動を行う団体等のコミュニティ活動の部分の動きと連動した視点もあったら良いのではないか。
- ・ 福祉のことを知らない人、わからない人が委員会に入ることも大事である。委員会メンバーになることで、知ってもらい、理解者が一人増えることにつながる。
- ・ 市民の活動が情報としてまだまだ行き渡っていない。情報を周知し、定着させることを地道にやって行くしかない。能美市には土壌があり、つなぎ合わせられる人がたくさんいるので、参画する仕組みを作って行く。
- ・ 専門職との協働とは、情報や知識の共有と、課題に対して一緒に取り組むことを通してお互いのことを感じてもらうことである。
- ・ みんなが協力して、同じ場所で同じ体験をすることが大事である。企画から一緒に行くなど、つながりを作る工夫が必要である。
- ・ 現在、高齢者でも障がい者でもなく、ひきこもりや生活困窮者など、特性を持った方々は、これまでの分野には分けられない課題がでてきている。これを地域がどのようにみていくか、地域との関わりについて考えて行かなければいけない。
- ・ 特性を持った方が地域の中に入れるように、橋渡しやつなぎ役になれる人が増えると良い。
- ・ 地域活動など、事例を通して伝えることで、イメージしやすい。事例には、必ず背景と課題がついている。そこを知った上で考えられ、視点が深められる。

- ・ 地域福祉委員会の運営について、それぞれの町(内)会で独自で行っている。他町(内)会でどのような活動を行っているか、情報交換を行うことも良いのではないかな。
- ・ 担い手の育成も大事である。
- ・ 福祉見守りあんしんマップの情報をどのように共有するかが大事である。
- ・ 普段から自分に何かあった時には、自分から助けてと言える地域づくりが大事である。
- ・ 個別避難計画は、命を守るために立てているが、その次に避難生活をどのように送るかは大事である。
- ・ 災害時の緊急避難と避難生活の二つの視点が大事である。
- ・ 避難所では避難者の状況に合わせた臨機応変な対応が必要である。

④ まとめ

評価委員会委員長 西川 方敏

3委員会からの報告ならびに自己評価では、それぞれの委員会が掲げる目標や、それを実現するための活動、そしてその自己評価がしっかりと記述されています。しかしながら、評価委員会の席上、各委員会の活動を相互に評価する意見が、なかなか出ませんでした。各委員会活動は互いに内容が重複しているものもあります。しかし、それぞれが独立して行なわれていることで、相互理解が足りていないのかも知れません。お互いの理解促進のためにも、共同で行事を実行するなど、工夫を凝らしてもよいのではないのでしょうか。

各委員会の活動は3年を経過して、よく練られた精緻なものになってきています。しかしながら、相互評価を活性化させるためにも、共通の課題である「地域福祉とは何か」を原点に戻って再考する良い機会とも言えます。

僅か25年前ですが、前世紀最後の年2000年に生まれた「社会福祉法」は、1951年に制定された社会福祉事業法を大きく改めたものです。特徴は2点あります。

ひとつは「福祉は権利」と位置付けたことです。「措置から契約へ」という言葉を聞かれたことがあるかと思います。福祉は行政により与えられる恩恵ではなく、利用者が福祉サービスを主体的に活用するという形態への転換です。

もうひとつが「地域福祉の推進」です。行政と社会福祉法人だけの福祉事業から、地域住民を主体と位置付けて、地域の福祉課題の解決を目指す形態への転換です。福祉を「だんのらしのあわせ」と捉えるなら、地域の福祉課題はコミュニティ活動そのものにまで間口が広がります。地域福祉は地域の文化と言える所以です。

福祉サービスは制度的に提供されるものであると、一般的に捉えられています。公助・共助としての福祉サービスがそうです。同様に、地域における自助互助の活動においても、「助け合い」を福祉サービスとして捉えることもできます。言うなれば自発的な福祉サービスのやり取りです。GDPが低迷している日本ですが、地下経済では福祉サービスの物々交換が活発に行われているわけです。ひとつの見方です。

地域福祉における福祉サービスの提供者のひとつがボランティアです。ボランティアセンターへボランティア登録することで、活動中の事故に備えて保険が付与されたり、需要とのマッチングを行ってくれたり、ボランティア側にも利点が多くあります。しかし、登録ボランティアの数が、最近は減少傾向なのが気になるところです。ボランティアを便宜的ではありますが、福祉ボランティア、教育ボランティア、防犯ボランティアと三種に分けることができるかと思います。登録ボランティアは福祉ボランティアが大部を占めます。教育ボランティアや防犯ボランティアにも登録を働きかけることで、登録数を増やし、多様な福祉課題にも対応が可能になるのではないのでしょうか。

昨年の元日にあった能登半島地震では、能美市でも被害がありました。また、能登からの避難者が市内で避難生活を送っていました。このことから、災害を身近なものとして、自分たちも備えなければならないものとしての認識が広がりました。町会単位の地域福祉委員会では、従来の町会長や民生委員・児童委員、福祉推進員、班長等だけではなく、防災士も会議に加わるなどの新しい動きが出てきました。地域社会全体で、災害に備えていこうという動きの芽生えです。

災害発生時には命を守るための緊急避難が必要になります。避難所での生活を続ける状況になれば、避難所運営に福祉の視点が必要になります。災害ボランティアセンター運営だけではなく、避難所運営についても、しっかりと準備する必要があります。日頃から要配慮者をどのように支援するかの、考察が大切です。

能美市では住人の200人に5人が外国人です。日本語に不慣れだという点で、とくに災害時には外国人への支援も必要となるでしょう。

今後に向けて地域福祉活動を考えるときの指針として、考慮していただきたいことを抜粋しました。

- a 3委員会がお互いの活動内容を理解し、協働する。
- b 地域福祉とは何かを、原点に戻って考える。
- c コミュニティ活動に福祉の視点を浸透させる。
- d 災害発生時の福祉課題を考察する。平時との違いを考える。

以上、いろいろと羅列しました。しかしながら地域福祉において最も大切なことは次の点ではないでしょうか。

地域福祉は福祉制度の大切な構成要素です。しかし、法や政令、省令、条例などを理解して制度を運営するのは行政や諸事業体の行うことです。地域住民が行うことは、福祉の心意気を持って信頼の輪を作ることです。自助互助の精神で以て頼り頼られ、つながることです。

⑤ 報告と公表

本報告書は、第86回理事会【6月3日（火）】及び、第79回評議員会【6月20日（金）】において、理事・監事・評議員に報告するほか、本会ホームページにおいて公表します。

2. 3委員会の評価シート・経過シート

推進する委員会	令和6年度 こころに寄り添い合う人づくり委員会 評価シート						
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・地域における「ふれあい行事」の開催数(単年度数)	330回	204回	125回	158回		
	・障がいのある方(その親等)の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)	35回	39回	39回	60回		
	・子育て支援に関する集いの場の実施回数(単年度数)	250回	268回	283回	303回		
	・地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数(単年度数)	5,500人	3,525人	5,288人	3,599人		
第4次計画でめざすこと	①私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。 ②福祉のこころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。 ③多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。 ④孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。 ⑤研修や啓発の機会にICTを活用し、情報発信をすすめます。						
昨年度の課題	・参加者が50代～70代に偏る傾向が見られるため、若い世代や子育て世代の市民が幅広く参加できるような工夫が必要。 ・研修や啓発活動の機会にICTを活用し、多角的に情報発信することが必要。 ・教育関係者・福祉団体・それぞれの組織の連携を強化して、共にすすめて行く意識付けが必要。 ・福祉教育では、幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、出会いやふれあいを通して理解を深めることが継続的に必要。						
どのように進めてきたか (3年目)	◆多様性についての理解・啓発をすすめ「共に生きる」意識づくりに取り組んだ。 ・障がいのある人やそのご家族から“思い”をお聴きする「お話を聴く会」を実施。 * ご協力いただいた団体：市身体障害者福祉協議会、市手をつなぐ育成会、三道山子ども食堂 ・お聴きした“思い”を春 まち ほかほか プロジェクトでの報告会で市民に発信した。さらに、当事者の声で直接発信し、「自身が出来ること」を考える機会とした。 ・児童館に出向き、児童クラブの子どもや職員に向けて障がいの理解につなげる絵本の読み聞かせを行った。 ・ジュニアボランティアクラブに参加した親子に障がいの特性の理解を進める人づくり講座を行なった。 ◎「お話を聴く会」を実施したことで、当事者間で思いを共有したり、先輩方から情報を得る場をつくることができた。また、当事者の視点に立った意識を持ち、思いや考えに寄り添うことの大切さに気づくことができた。 ◆ユニバーサルスポーツを通して、多様な人が交流する場をつくった。 ・すべての参加者が楽しくスポーツやゲームに参加するにはどうしたらいいのかを話し合い取り組んだ。 ・昨年度に引き続き、市自立支援協議会子ども連絡会と連携し、放課後等デイサービスと児童クラブとの交流を行った。 ・ふれあい福祉交流会に主催(社協と共催)となり企画運営にかかわった。 ・みんなの街フェスに参画し、ユニバーサルスポーツの体験を通して、交流できる場を設けた。 ◎ 多様な人が交流できるよう、それぞれの特性に合わせたやり方を考え工夫したことで、障がいのあるなしに関わらずに参加し、ふれあうことができた。						
取り組みの中で見えた課題 (3年目)	・当事者の視点に立ち、地域社会を見直していくことがまだまだ必要。そのためにも当事者との対話が必要。 ・当事者の声から、地域との希薄性や本心を言えない環境にいる背景が見えたため、地域の中で交流できる場づくりを広め、意識の変化につなげていくことが必要。 ・多様な人たちが分け隔てなく、ふれあうことができる手段や工夫が必要。 ・幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、出会いやふれあいを通して、理解を深めることが継続的に必要。 ・研修や啓発活動の機会にICTを活用し、多角的に情報発信することが必要。						
今後に向けてどう進めるか	・多様性についての理解を進めるためにも人づくり講座(ICT活用)を継続し一緒に学び考える機会をつくる。 ・福祉教育の更なる充実に向けて、幼少期から障がいの知識や理解を得るためにも、児童館などに出向きの読み聞かせや放課後等デイサービスと児童クラブとの交流は継続していく。 ・多様な人たちが一緒に参加し、共に活動できる場を広げるためにも「地域でふれあい行事を行うためのポイントガイド(第1次地域福祉人づくり委員会作成)」を見直し、地域福祉委員会等への意識づくりと活動へのきっかけづくりのための啓発を行う。						

推進する委員会		令和6年度 ころに寄り添い合う人づくり委員会 経過シート
★第4次計画 でめざすこと		① 私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。 ② 福祉のころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。 ③ 多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。 ④ 孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。 ⑤ 研修や啓発活動の機会にICTを活用し、情報発信をすすめます。
★委員会と SDGs		多様な人々の存在や共生についての理解が深まり、互いを理解し、 認め合い居心地よい地域づくりが根付くようにすすめます。 
実践活動 内容（どんな 事を話し合 い、行っ たか）	第1回 会合 (6/20)	1)経過説明 ・第4次活動計画2年目として評価シート等にて進捗状況を報告。本委員会のめざすことなどを確認し合った。 2)委員紹介、自己紹介 3)委員長・副委員長の選出 津田委員長・小西副委員長・外山副委員長 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・今年度の協議の方向性として、共生のための意識づくりにつなげる活動として放課後児童クラブと放課後等デイサービスの交流活動の継続、当事者の方や家族の思いを聞き取り市民に発信していくことを話し合った。
	第2回 会合 (7/25)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座」の活動内容・日程について検討 ・冬休み・春休みにおける放課後等デイサービスと放課後児童クラブの児童との交流の継続(自立支援協議会との協働企画) ・8.9.10月頃、障がいのある方やその家族からの思いを聞き取るなど、学びの場づくりを進めることを確認し合った。 ・11月「ジュニアボランティアクラブ」、12月「みんなの街フェス」に参加・協力 取り組みに向けて各委員が調整を行う。
	第3回 会合 (8/26)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座」の活動について確認 ・お話を聴く会(障がいのある方やその家族からの思いを聴き、春ばかばかで市民に発信し、誰もがその人らしく暮らせる地域づくり(意識づくり)につなげる)の日程調整を行う。 市身体障害者福祉協議会:10月初旬、市手をつなぐ育成会:10月中旬 聞き取りのポイント等を確認。 ・学び→人づくり講座:講師 津田委員長
	第4回 会合 (9/17)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座」の活動について確認 ①お話を聴く会の日程確認。 ②「ジュニアボランティアクラブ」における人づくり講座の内容検討 ③ふれあい福祉交流会の内容確認
	第5回 会合 (10/23)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座・交流会」の活動について確認 ①ジュニアボランティアクラブ・ふれあい福祉交流会の内容及び役割分担の確認。 ②放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの交流(市自立支援協議会子ども連絡会とのコラボ企画)の内容検討。 2)委員会活動の報告 ・お話を聴く会(障がいのある人とその家族の思いを聴く) *10/8 市身体障害者福祉協議会会員2名 *10/12 市手をつなぐ育成会会員8名
	第6回 会合 (11/20)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座・交流会」の活動について確認 ①放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの交流(市自立支援協議会子ども連絡会とのコラボ企画)の日程と役割分担を決める。 ②お話を聴く会 三道山子ども食堂で実施している障がいのある子どもとその家族が集まる第3金曜日(12/20)に出向くこととした。 2)委員会活動の報告と振り返り ・11/2 ジュニアボランティアクラブに協力、12/7 振り返りに津田委員長出席 ・11/9 ふれあい福祉交流会
	第7回 会合 (12/16)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座・交流会」の活動について確認 ①放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの交流(冬休み12/25～27)の流れを確認し合った。 ②春 まち ばかばか プロジェクト ころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会の内容検討。 テーマ:「聴いて・話して・つながって! ～多様な人々の声に耳を傾けて～」 2)委員会活動の報告と振り返り ・12/7 みんなの街フェスin能美に参加協力。ユニバーサルスポーツ体験コーナー(ポッチャ・輪投げ)を担い、活動の周知と交流の機会とした。
	第8回 会合 (1/14)	1)「ころに寄り添い合う人づくり講座・交流会」の活動の振り返り ①放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの交流 ②お話を聴く会 三道山子ども食堂 2)委員会活動の報告と振り返り ・冬休み12/25～27放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの交流の実施。 ・お話を聴く会(障がいのある人とその家族の思いを聴く) *12/20 三道山子ども食堂 クリスマス会に出向いた。
	第9回 会合 (2/10)	1)春 まち ばかばか プロジェクトでの委員会報告の内容について最終確認。
	春P (2/22)	*春 まち ばかばか プロジェクトころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会 テーマ「聴いて・話して・つながって! ～多様な人々の声に耳を傾けて～」 ころに寄り添い合う人づくり講座 ・委員からの報告 障がいのある方やそのご家族からお聴きした「思い」を発信! ・能美市身体障害者福祉協議会会員の方より 当事者の思い発信! ・個人ワーク「私たち一人ひとりができることを考えてみよう!」・参加:74名
	第10回 会合 (3/5)	1)春 まち ばかばか プロジェクト(プログラム16)、1年間の取り組みの振り返り

推進する委員会	令和6年度 見守り・助け合い推進委員会 評価シート						
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・ 地域福祉委員会の実施回数（単年度数）	950回	494回	504回	559回		
	・ いきいきサロン・地域カフェ、公民館開放等の実施回数（単年度数）	2,000回	1,430回	1,707回	2,476回		
	・ 地域福祉委員会ヒント探し講座【基礎編】修了者数（地域福祉委員会活動推進員登録者数） ※ R6年度より入門編→基礎編に名称及びカリキュラム内容変更	520人	410人	427名	482名		
	・ 地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数（累計数）	25団体	18団体	19団体	20団体		
	・ ボランティア登録人数（単年度数）	4,700人	3,049人	3,025人	2,899人		
	・ ボランティア登録団体数（単年度数）	96団体	83団体	87団体	83団体		
第4次計画でめざすこと	① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめる。 ② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめる。 ③ ICTを活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめる。 ④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめる。 ⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめる。						
昨年度の課題	・ 地域福祉委員会の委員長を担う町（内）会長さんに、地域を基盤とする「地域福祉委員会」の取組みの必要性の理解を深めていただくために、各所属団体も巻き込みながら繰り返し意識づけ（周知も含む）を行うことが必要。 ・ 地域を取り巻く多様な課題に対して、地域住民と企業や商店等が連携し合える見守り活動のネットワークの充実をすすめていくことが必要。 ・ 見守り活動に関する情報を共有することや、情報発信のしくみの一つとして、ICTを活用しつながら工夫が必要。						
どのように進めてきたか（3年目）	・ 地域における「つながり」の大切さの意識を高められるよう地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげ広げていくためのきっかけづくりの手段の一つとして「地域での見守りを進めるためのポイントリスト」の内容について協議し、作成に至った。 改訂版を作成するにあたっては、複雑多様化した地域課題を踏まえながら、幅広い視点に見守りの視点を向けてもらえるように工夫し、また言葉の表現方法に気を配りながら協議を深めた。 ・ 「ポイントリスト（改訂版）」については、春 まち ぽかぽか プロジェクトにて市民に報告し、見守りポイントについての共有を図り、また各地域福祉委員会等での活用につなげられるよう参加者に広く呼びかけた。 ・ 本委員会のめざすことの中に、「地域を基盤とする地域福祉委員会の活動の充実をすすめること」、また、「他町会の取組や助け合い活動の事例を学ぶこと」が大切であることから、福島町、寺井町横町地区福祉委員会の見守りや助け合い活動の取組み事例を紹介し、情報共有の機会へつないだ。						
取り組みの中で見えた課題（3年目）	・ 今年度委員会にて作成した「ポイントリスト」を、今後地域福祉委員会の中でどのように活用し地域の見守りの意識を広げ高めていくのか、また活用の中での取り組み事例等検証していくことが必要。 ・ 地域福祉委員会活動における理解を広げるための手段として、地域福祉委員会活動の事例集の作成等のしくみづくりについての検討が必要。 ・ 各種所属団体に対して、本委員会の活動内容を知る機会や、自分たちができることについて考えてもらうための機会やきっかけづくりが必要。						
今後に向けてどう進めるか	・ 各所属団体と連携し、地域における「つながり」の大切さの意識を高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくための自助互助によるしくみづくりを進める。 ・ 今年度作成した「地域での見守りを進めるためのポイントリスト」の活用方法について検討し、活用した結果の分析を進める。 ・ ICTを活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法について、各所属団体で取り組めるよう工夫につなげていくことを進める。						

推進する委員会		令和6年度 見守り・助け合い推進委員会 経過シート
★第4次計画 でめざすこと		① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめます。 ② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめます。 ③ ICTを活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめます。 ④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめます。 ⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめます。
★委員会と SDGs		地域住民が、互いに見守り助け合うという活動が地域に根付き、よりよく暮らせるように取り組んでいきます。      
実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）	第1回 会合 (6/20)	1) 経過説明 ・第4次活動計画1年目として評価シート等にて進捗状況を確認後、概要版をもとに、本委員会のめざす事、大切なポイント等について共有した。 2) 委員紹介、自己紹介 3) 委員長・副委員長の選出 藤田委員長・吉田副委員長・山先副委員長 4) 今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・毎月1回委員会を開催。また、委員同士ライングループをつくり情報共有の機会につなげた。
	第2回 会合 (7/23)	1) 地域福祉委員会について活動のてびきをもとに概要説明し、併せて『地域見守り活動の見守りポイントリスト』にて見守りの必要性についての認識を深めた。 2) 今年度の委員会の取り組み内容について、まず各委員より所属団体として、また町(内)会での取り組みについて報告し合い、地域との関わり合いの中で、気になることや課題等について話し合った。今後もさらに地域における「つながり」の大切さへの意識を高められるよう、継続的に協議を重ねていくことを確認した。 今年度は、見守りポイントリストの内容の見直しを委員会にて行っていくことを共有した。
	第3回 会合 (8/27)	1) 『地域見守り活動のポイントリスト』の内容の見直しを行うために、全員が発言しやすいよう3グループに分かれて意見交換を行った。意見交換は、模造紙と項目ごとに付箋を活用しながら話し合いを行う工夫にもつなげた。グループワーク後は、それぞれの各グループから出た意見を発表し共有した。 2) その他
	第4回 会合 (9/24)	1) 前回委員会にて『地域見守り活動のポイントリスト』における内容の見直しの際に出た意見について、事務局でまとめたものを、再度委員会で確認した。さらに今回出た意見、修正箇所については、次回までに事務局でまとめ直し共有につなげることを確認した。今後の周知方法については、次回委員会にて確認していく。 2) 意見交換 ・現在、社協主催ですすめている「地域福祉委員会活動ヒント探し講座【基礎編】」のプログラム内容及び受講状況について共有した。次回委員会では、受講されている委員より、住民流支えあいマップづくりにおける実践内容についての感想や報告を行いながら各町の取り組み実践内容について確認していく。 3) その他
	第5回 会合 (10/31)	1) 見守りポイントリストの配布について検討 → 春 まち ぽかぽか プロジェクト報告会で報告することで全員の了解を得た。 2) 地域福祉委員会活動ヒント探し講座【基礎編】の実習内容である住民流支えあいマップについて、藤田委員長が説明し、共有につなげた。また、委員の中で受講された町会(福岡町・寺井町北町・和氣町)から報告いただき、情報共有を行った。 3) 意見交換
	第6回 会合 (11/26)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクト(委員会の報告)の報告会のテーマ及び内容について協議 ・テーマについて意見を出し合った。それを基に、次回までにそれぞれ案を持ち寄ることとした。 ・内容について、委員より意見を出し合い、方向性について確認した。見守り・助け合い推進委員会の報告会は、地域福祉委員会活動推進員の研修会も兼ねることも含め協議を深めた。次回、改めて協議を行う。
	第7回 会合 (12/17)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクト(委員会の報告)の内容について継続協議 ・テーマの決定→『つなげよう 声かけ合って 地域の輪 ～自分ができる見守り助け合い活動って何だろう～』 ・内容について、地域福祉委員会活動推進員の研修会も兼ねることから、①ヒント探し講座基礎編・充実編の活動報告、②意見交換を行うことで全員の了解を得た。また、今年度委員会で協議を重ねてきた「見守りポイントリスト(改訂版)」の報告も併せて行う。 2) 意見交換
	第8回 会合 (1/28)	1) 春まち ぽかぽか プロジェクト(委員会の報告)の内容について継続協議 ・グループワークの内容について確認 ・福島町・寺井町横町地区福祉委員会の取り組み内容について共有を図った 2) 意見交換
	第9回 会合 (2/13)	1) 見守りポイントリストの内容について最終確認 2) 春まち ぽかぽか プロジェクト(委員会の報告)の内容について最終確認 ・グループワーク用のシート内容について協議した。 3) 意見交換
	春P (2/24)	春 まち ぽかぽか プロジェクト 見守り・助け合い推進委員会の報告会 参加119名 ①見守りポイントリスト(改訂版)の報告、②福島町・寺井町横町地区福祉委員会より見守り活動の報告・意見交換(グループワーク)・発表・まとめ ※地域福祉セミナー、地域福祉委員会活動推進員研修会を同時開催
	第10回 (3/5)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクト(プログラム9)、一年間の取り組みの振り返り

推進する委員会	令和6年度 暮らし応援委員会 評価シート						
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・市内で実施されたフードドライブの回数(単年度数)	34回	27回	20回	93回		
	・フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数(単年度数)	54団体	30団体	27団体	28団体		
	・フードドライブの配付件数(単年度数)	430件	299件	417件	508件		
第4次計画でめざすこと	①私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。 ②多様な主体がそれぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめます。 ③情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。 ④地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。 ⑤誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。						
昨年度の課題	・フードドライブの取り組みを定期的に続けてきたことで、様々な団体等が実施し認知されてきた。しかし、助け合い支え合いの取り組みであることの理解には達していないように感じられることから今後もフードドライブを継続し、更に助け合いにつながるしくみであることを伝え続けることが必要。 ・今年度、「必要とされている居場所は何か」を考え、また「既にどのような居場所」があるのか、話し合いを進めてきたことでつながるための人と関わる居場所づくりに一歩進むことができた。しかし、現状では様々な居場所が存在していることが知られていないことやつながりが弱いことから、更なる情報発信やネットワークづくりが必要。						
どのように進めてきたか (3年目)	・委員会にて、地域の現状を確認し合い、地域で暮らす誰もがつながり助け合うしくみづくりに向けて話し合いを進めた。 ・昨年度からの声を具体的に見える化した「居場所いい場所つながりマップ」を作成した。 ・つながるための一つの方法として、フードドライブ、フードパントリー時の取り組みを年4回ずつ行なった。 ・新たな居場所としてフードパントリー時の「ほっと一息♡カフェコーナー」を開催し、ほっと一息、コーヒーなどを飲むだけの場所から人とのふれ合い、つながり、生活相談をしやすい居場所になった。 ・それぞれが役割があることで生きがいを持ち、地域で暮らしていけるそんな居場所をみつけられるように発信していく。						
取り組みの中で見えた課題 (3年目)	・居場所いい場所つながりマップにてたくさんの居場所がみつけれられたが、居場所をどのように周知していくことや孤立せず出掛けやすい居場所をつくることを考えていくことが必要。 また、年代別 や分野別の居場所の必要性がある一方、誰でも参加できる居場所や誰もが活躍できる場所を作っていく必要性についての検討が必要。 ・地域に新たな居場所を作っていくことや、つなげていくことを今後も考えていく必要がある。 ・つながりのしくみづくりの一つとしてのフードドライブやフードパントリーは、助け合い活動の理解のために様々な団体の協力を得て継続していく必要がある。						
今後に向けてどう進めるか	・居場所の見える化(居場所いい場所つながりマップ)にて居場所の存在を知り、情報発信としてのマップの配布が一部できた。今後は見えてきた居場所をICTの活用も含めてどのように周知していくことができるかを検討する必要がある。 ・居場所を実際に身近な地域などで作っていくためのヒントが得られる機会を勧める。 ・フードドライブやフードパントリーを継続して行い、助け合い活動の啓発を勧め、支える側支えられる側に分かれるのではなく、それぞれが役割を持ち活躍できる場所を含めたつながるしくみづくりを進める。						

推進する委員会		令和6年度 暮らし応援委員会 経過シート
★第4次計画 でめざすこと		① 私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。 ② 多様な主体が、それぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめます。 ③ 情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。 ④ 地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。 ⑤ 誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。
★委員会と SDGs		生活に不安を抱える人々が、人や地域とつながり、互いが助け合うしくみが、この地域に根付くようにすすめます。 
実践活動内容 (どんな事を話し合い、行ったか)	第1回 会合 (6/20)	1) 経過説明 ・第4次活動計画2年目として評価シート等にて進捗状況を報告。本委員会のめざすことなどを確認し合った。 2) 委員紹介、自己紹介 3) 委員長・副委員長の選出 近藤委員長・谷田副委員長・立花副委員長 4) 今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・昨年度の取り組みのフードドライブについての意見交換 ・毎月1回委員会を開催。
	第2回 会合 (7/23)	1) フードドライブ・パントリーの取り組みについて協議 【フードドライブ】日時: 7月25日(木)～8月8日(木)9時～17時会場: ふれあいプラザ(能美市社会福祉協議会窓口にて随時受付) 9月29日(日) 10時～12時 会場: 根上総合文化会館(能美市民ボランティアフェスティバルに併せて) 【フードパントリー】日時: 8月10日(土)11日(日)13時半～15時 ふれあいプラザ2階: カフェコーナーあり 2) 意見交換 ・居場所づくりについて 居場所の可視化の方法について ・フードドライブ・フードパントリーの周知について
	第3回 会合 (8/28)	1) つながるしくみづくりとしてのフードドライブ、フードパントリーについて(フードドライブ、フードパントリーの取り組みの報告) 【フードドライブ】7/25～8/8にかけて開催。42名参加。328品の寄付あり。期間を設けることが効果的であった。 【フードパントリー】8/10,11に開催 64世帯に開催。新規22世帯。周知が広がってきている。同時開催のカフェコーナーに30名の利用あり。暮らし応援委員会よりカフェコーナーに協力あり。居場所として継続していく。 2) 意見交換 ・居場所の見える化マップづくりについての話し合いを行った。暮らし応援委員会の目的に則った居場所が見えるマップを作成する。
	第4回 会合 (9/19)	1) つながるしくみづくりとしてのフードドライブ、フードパントリーについて ・9/29ボランティアフェスティバルでのフードドライブの協力: 暮らし応援委員会より3名の協力 ・10/26,27のフードパントリーカフェコーナーの協力: 居場所の見学でも可能と伝えた。協力に関しては検討中。 2) 意見交換 ・居場所マップづくりの見える化について、マップ作成に対しての具体的な話し合いを継続中。
	第5回 会合 (10/25)	1) つながるしくみづくりとしてのフードドライブ、フードパントリーについて ・資料にてフードドライブ、フードパントリーの入庫、出庫状況をお知らせした。物価高の影響からか、昨年に比べ、入庫は少なく、出庫が多い状況であることを報告。 2) 意見交換 ① 居場所マップづくりの見える化について、マップ作成に対して、具体的マップ案を作成し内容を検討。 ② 「春 まち ぽかぽか プロジェクト」における暮らし応援委員会の報告会について 内容の検討。
	第6回 会合 (11/21)	1) つながるしくみづくりとしてのフードドライブ、フードパントリーの予定と協力依頼について ・フードドライブ、フードパントリーの周知について、委員が積極的に町会や各団体に行う。 2) 意見交換 ① 居場所マップづくりの見える化について、マップ作成に対しての具体的な話し合いを行った。 ② 「春 まち ぽかぽか プロジェクト」における暮らし応援委員会の報告会について テーマ、居場所の事例報告の内容の検討。
	第7回 会合 (12/16)	1) つながるしくみづくりとしてのフードドライブ、フードパントリーについて ・歳末フードドライブ協力: 暮らし応援委員会委員、市国際交流協会より外国の方々、寺井高校JRC、市ボランティア連絡協議会役員 ・12/21,22フードパントリーについては子育て世帯対象の時間を設ける。 2) 意見交換 ① 居場所マップづくりの見える化について具体的な内容確認、意見交換。 ② 「春 まち ぽかぽか プロジェクト」における暮らし応援委員会の報告会について グループワークなどの内容内容確認。
	第8回 会合 (1/24)	1) フードパントリーについての実績報告と今後について居場所としてのカフェコーナーの意見交換。 協力: 暮らし応援委員会委員、民生委員。 ・12/21,22 72世帯利用。子育て世帯対象の時間を設けたことで利用者22世帯あり。前回(10月開催)より倍増した。 2) 春 まち ぽかぽか プロジェクト」における暮らし応援委員会の報告会 内容確認・及び意見交換。 3) 居場所つながりマップ作成にむけて意見交換。
	第9回 会合 (2/12)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクトでの委員会の報告内容について最終確認。 2) 居場所いい場所つながりマップについて最終確認。
	春P (3/1)	・春 まち ぽかぽか プロジェクト 暮らし応援委員会の報告会 “居場所いい場所!!” 実施 ・居場所介護を考える会・日本語教室・居場所Port)の報告の紹介 ・フードパントリーカフェコーナーからつながった事例紹介 ・“情報・意見”交換 「自分の居場所は?」「地域に居場所ができるには?」 参加69名 ・フードドライブの実施: 3月3日(日)10:00～15:00 寺井地区公民館
	第10回 会合 (3/8)	1) 春 まち ぽかぽか プロジェクト(プログラム⑮、⑰)。1年間の取り組みの振り返り、次年度に向けての話し合い。 プログラム⑰フードドライブ協力: 暮らし応援委員会委員、市国際交流協会より外国の方々、市母子会会員親子。

3. 第4次能美市地域福祉活動計画の指標〔令和6年度 3年目〕

◆ こころに寄り添い合う人づくり委員会

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
地域における「ふれあい行事」の開催（回） ※「ふれあい行事」は地域の既存の行事に福祉の視点を取り入れて行うもので地域福祉委員会の実績報告で把握します。	252	330	204	125	158			①ボラフェス(1)、ふれあい福祉交流会(1)、みんなの街フェス(1)、地域共生館まつり(2)=5 ②児童館ボッチャ・読み聞かせ(4)、ジュニア(1)、春P(1)=6 ③ふれあい行事(各地域福祉委員会からの報告)(147)
①ボラフェス・ふれあい福祉交流会等の実施回数（回）			1	1	5			
②こころに寄り添い合う人づくり講座回数（回）			10	13	6			
③地域福祉委員会におけるふれあい行事の実施回数（回）			193	111	147			
障がいのある方(その親等)の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)（回）	32	35	39	39	60			①ぬくもり：目が見えない、みにくい方のサロン ②福耳ネット：耳が聞こえない、聞こえにくい方のサロン ③ゆるにこ(21)、ふれあい福祉交流会(1)、みんなの街フェス(1)、話を聴く会育成会身障(2)、三道山子ども食堂(障がい等世帯対象)(19)=44
①ぬくもりサロンの実施回数（回）			4	4	4			
②福耳ネットの実施回数（回）			11	11	12			
③ゆるにこひろば・ふれあい福祉交流会等の実施数（回）			24	24	44			
子育て支援に関する集いの場の実施回数(単年度数)（回）	191	250	268	283	303			①親子サロン(136)、絵本カフェ(2)、ミニ運動会(1) ②のみんな(1)、子育てNW:ファミ(2)・食育(2)・ごちゃまぜ(1)、子ども食堂：三道山子ども食堂(31)・irodori(53)・下ノ江(12)・ワッス(50)・火釜(2)、不登校の会(10)
①親子サロン・ミニ運動会・絵本カフェの実施回数（回）			133	136	139			
②のみんなひろば・子育てネット・子ども食堂の実施回数（回）			135	147	164			
地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数（人）	3,365	5,500	3,525	5,288	3,599			①学校からの実績に基づき算出 ②ジュニアボランティアクラブの参加実績に基づき算出 ③児童館交流(158)、春P(74)、みんなの街フェス(80)、ふれあい福祉交流会(160)、ボラ講座車椅子体験(7)
①学校での福祉体験の体験者の延べ人数（人）			3,237	4,818	3,058			
②ジュニアボランティア施設体験者延べ人数（人）			84	62	62			
③放課後等児童クラブや地域での共生理解の体験延べ人数(人)			204	408	479			

◆見守り・助け合い推進委員会

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
各町地域福祉委員会の実施回数(単年度数) (回)	493	950	494	504	559			各町地域福祉委員会の報告に基づき算出。
地域のいきいきサロン・地域カフェ・公民館開放等の 合計実施回数(単年度数) (回)	1,033	2,000	1,430	1,707	2,476			各町のいきいきサロン・地域カフェ・公民館開放等の報告に 基づき算出。
地域福祉委員会活動ヒント探し講座【基礎編】修了者数 (活動推進員登録者数)(累計数) (人) ※R6年度より、入門編→基礎編に名称及びカリキュラム内容を変更	381	520	410	427	482			実績に基づいて算出。
地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合い グループ」把握団体数(累計数) (団体数)	16	25	18	19	21			①認定NPO法人えんがわ、②末信町支えあい隊、 ③石子町お世話さん、④九谷町見守り隊、 ⑤西二口町ほえみネット、⑥松が岡クラブ、 ⑦東レOB支援隊、⑧能美子ども食堂ネットワーク、 ⑨三道山子ども食堂、⑩みんな食堂、 ⑪NPO法人たすけ愛、⑫市商工会女性まちづくり 研究会、⑬栗生リンクの和、⑭オアシスつるしん、 ⑮下ノ江ささえあい隊(下ノ江こども食堂)、 ⑯下開発つながりの会、⑰I・RO・DO・RIひろば、 ⑱道林町支えあい隊、⑲赤井町高齢者お助け隊、 ⑳火釜みんな食堂、㉑きまっしーの会
団体名 ①～⑯			⑰、⑱	⑲	⑳、㉑			
ボランティア登録数(単年度数) (人)	3,359	4,700	3,049	3,025	2,899			実績に基づいて算出。
ボランティア登録団体数(単年度数) (団体数)	91	96	83	86	83			実績に基づいて算出。

◆暮らし応援委員会 (R3年度から開始)

指標項目	第3次 最終 (R3実績)	目標値	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	算出根拠
フードドライブ実施回数 市内実施(単年度数) (回)	17	34	27	25	95			・ 社協開催だけではなく、市内企業や団体での取り組みも含む (中町町内会3、金沢村田製作所1、北電網小松支店1、のみ社福連1、大成町内会1、寺井校下女性会1、辰口校下女性会1、NGKセラミックデバイス㈱1、アルビス辰口店1、カープス能美寺井1、カープス本部1、宮竹小1、社協4、市生活環境課1、ファミリーマート(能美中町12、能美五間堂店12、辰口丘陵公園前店12、能美道林店12、能美佐野店12、能美大成南店12)、日本郵便(株)加賀南部地区連絡会能美部会1、マルエー寺井店1、マルエー根上店1)
フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数(単年度数) (団体数)	29	54	30	27	28			・ 協議団体14：協力団体(母子寡婦福祉連合会・りんく・寺井高JRC) 3、暮らし応援委員会委員団体11 ・ フードドライブ実施企業・団体・学校14
フードドライブで寄付を受けた食料の配付件数(単年度数) (件)	217	430	299	417	508			暮らしサポートセンターを通じて配付した件数を計上

◆春 まち ぽかぽか プロジェクト 参加者数 (人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
参加人数	927	1,243	1,370	1,261	1,721	1,473	1,828	0	185	871	1,451	1,734	1,914

◆社会福祉協議会の会員数 (人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
個人会員	4,692	4,581	4,361	4,224	4,419	4,344	4,763	4,763	4,234	4,103	4,122	4,111
団体・企業含む	5,050	4,926	4,708	4,557	4,748	4,674	5,092	4,664	4,503	4,386	4,404	4,374

4. 第4次能美市地域福祉活動計画の3年目の推進体制

		令和6年								令和7年				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
社会福祉協議会 理事会 評議員会				理 社 事 協 会 6/12					11/30			理 社 事 協 会 2/21	3/3 理 社 事 協 会 3/18	
				評 社 議 協 員 会 6/27								評 社 議 協 員 会 2/25	3/25 評 社 議 協 員 会 3/25	
推進組織	評価委員会					No.1 評 8/5	No.2 評 9/4		No.3 評 11/12			No.4 評 1/15	No.5 評 3/18	
	こころ豊かな 地域づくりの会					No.1 こ 8/5		No.2 こ 10/15				No.3 こ 1/7	No.4 こ 3/18	
	こころに寄り 添い合う 人づくり委員会			NO.1 6/20	NO.2 7/25	NO.3 8/26	NO.4 9/17	NO.5 10/23	NO.6 11/20	NO.7 12/16	NO.8 1/14	NO.9 2/10 NO.10 2/22	NO.11 3/5	
	見守り・助け合い 推進委員会			NO.1 6/20	NO.2 7/23	NO.3 8/27	NO.4 9/24	NO.5 10/31	NO.6 11/26	NO.7 12/17	NO.8 1/28	NO.9 2/13 NO.10 2/24	NO.11 3/5	
	くらし応援委員会			NO.1 6/20	NO.2 7/23	NO.3 8/28	NO.4 9/19	NO.5 10/25	NO.6 11/21	NO.7 12/16	NO.8 1/24	NO.9 2/12	NO.10 3/1 NO.11 3/8	
		第20回能美市社会福祉大会												

5. 中間年度評価と発展～いくつかの評価軸と意識していただきたい視点～

評価委員会アドバイザー 井岡 仁志 氏

◆ 地域福祉活動計画の策定・推進・評価のサイクル

「知る(調整)」⇒「知らせる(広報)」⇒「話し合う(協議)」
⇒「ビジョンをつくる(計画)」⇒「力を合わせる(協働)」⇒「見直す(評価)」

このサイクルを回し続けることで、住民参加や官民協働が進み、地域の福祉力が強化される（プロセスが重要）。

◆ 地域福祉の3つのゴール（活動計画のなにを評価するのか）

- ① 何人、何件、何か所といった数値目標、解決したか/しないかといった課題達成など重視するタスクゴール
- ② 計画策定および推進評価における過程を重視し、住民の問題解決力の向上、住民の主体形成を図るプロセスゴール
- ③ 策定過程における関係の変化を重視し、合意形成、対等な協働関係を構築するリレーションシップゴール（公私協働関係、住民・当事者と専門職の関係）

◆ 計画の点検、評価の4つのポイント

- ① 地域生活課題・福祉課題の変化
 - ② 事業プログラムに関する評価
 - ③ 計画推進による多様な波及効果や成果
 - ④ 将来ビジョンの確認
- ※ 事業のそもそもの目的は何だったか、その事業を行うことでどのような社会的変化や成果を生み出せたのかを総括する。

◆ 地域の福祉力と福祉の地域力の合力による地域福祉の推進

・地域の福祉力

- ① 地域生活課題を早期に発見する力
- ② 地域生活課題を話し合える力
- ③ 地域生活課題を協同して解決できる力
- ④ 地域の夢をかたちにする力

※ このような力を蓄積する組織化が必要。個を支える地域をつくるのではなく、個と共感する地域をつくる。

・福祉の地域力

専門職や行政が、地域に入り込み「地域の流儀」の沿った、地域を生かす力、地域に潜在する福祉力を奪わず活かすための姿勢、支援、支援方法の形成

⇒ 当事者・住民・専門職の出会いの場・協議の場を通した相互理解が大切

※ 「春 まち ぽかぽか プロジェクト クロージング～地域福祉のつどい～」
井岡氏の講演「誰もが幸せに暮らせるまちをめざして」より、抜粋しました。